

岐阜県農業技術センターニュース No.58

新規就農を支援するキュウリ栽培研究において 44t/10aの高収量を達成しました(野菜部)

新規就農者が就農後早期に高収量を得ることができるキュウリ栽培技術の確立を目指しています。

本研究では、新規就農者が取り組みやすく、マニュアル化が可能な「養液栽培」、「年2作体系（抑制作型＋半促成作型）」、「つる下ろし栽培」を基本技術とし、整枝方法、栽植密度などについて検討しました。

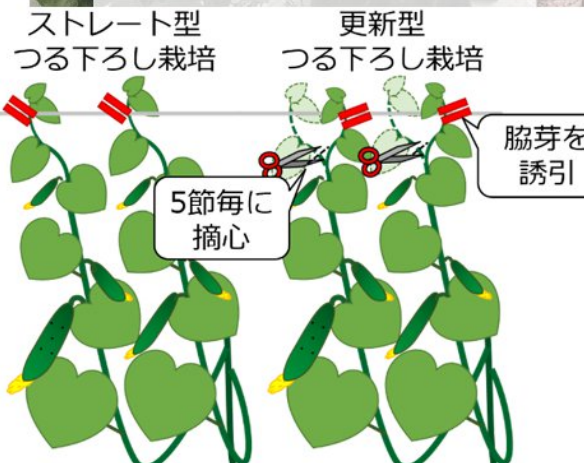
試験の結果、抑制作型では、つる下ろし栽培の中でも5節ごとに誘引枝の更新を行う更新型の整枝方法、半促成作型では更新を行わないストレート型の整枝方法とし、栽植密度を1500株/10a（現地の1.5～2倍程度の密植）で栽培することで、年間44.1 t/10aの可販収量を得られました。

2022年作	抑制作型 (8月～12月)	半促成作型 (1月～6月)
①整枝方法	更新型	ストレート型
②栽植密度	密植 (1500株/10a)	密植 (1500株/10a)

年 44.1 t/10a = 12.3 t/10a + 31.8 t/10a



つる下ろし栽培の様子



キュウリの整枝方法

日本土壤肥料学会福岡大会、中部支部大会における研究発表がダブル受賞！！

当センター土壌化学部の古田貴世佳研究員が、日本土壤肥料学会2024年度福岡大会において若手口頭発表優秀賞を、2024年度日本土壤肥料学会中部支部大会においてポスター賞を受賞しました。

それぞれ「地力窒素を踏まえた施肥法開発に向けて-第6報-飛騨地域夏秋トマト栽培における施肥設計支援システムの構築」、「岐阜県恵那地域の夏秋トマト栽培における土壌からの窒素供給量の推定」の研究発表が高く評価されたものです。

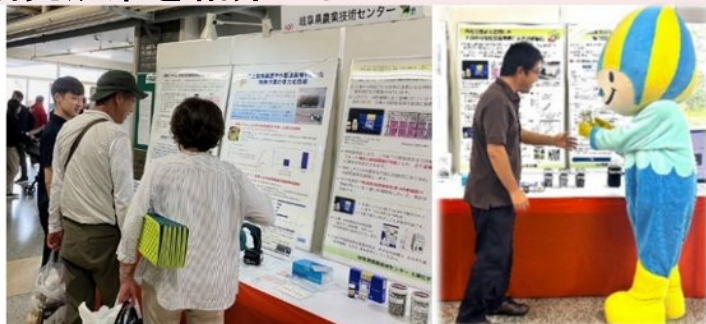
今後とも、現場に役立つ技術開発を目指してまいりますので、一層のご支援・ご協力をお願いします。



農業フェスティバルにおいて研究成果を紹介しました

県下最大級の『食』と『農』のイベント『農業フェスティバル』が令和6年10月26～27日に開催され、清流アリーナ内の「明日の農業」のブースにおいて研究成果の展示を行いました。

環境にやさしい生産管理技術をテーマとして、土壌化学部からトマト施肥設計支援システムなどを、病理昆虫部から微生物農薬の省力散布技術などを紹介しました。



「農畜水産業の革新的経営環境強化プロジェクト研究」を開始します！

令和6年度から開始された新規プロジェクト研究において、最新の鮮度保持技術や損傷低減容器等の利用により、本県特産「天下富舞」の品質を長期間保持できる輸出技術の開発に取り組んでいます。

「天下富舞」の輸出用品質保持技術の確立(果樹・農産物利用部)

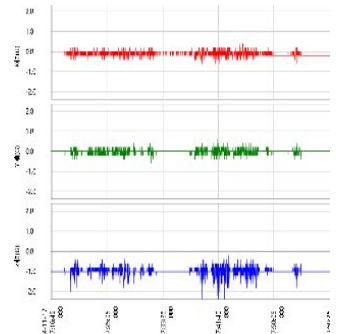
開発する技術 ⇒ ガス環境の最適化や物理的損傷の防止などによる輸出技術

最新技術を利用したガス濃度のコントロール

物理的損傷の防止



Active-MAP



振動測定・解析



コート処理

無処理

エディブルコーティング



損傷低減容器（イメージ）

輸出の実証

輸出先の販売荷姿や方法に応じた輸出技術を実証

タイ農業研究開発機構視察団の方々が来所！

令和6年11月7日にタイ農業研究開発機構関係者9名とタイ大使館担当者1名が農業技術センターを訪問されました。

当センターの概要や研究の取組み紹介後に、当県で開発したカキ品種が栽培されている果樹園、先端的な環境制御によるイチゴの栽培施設、高度環境制御による水稻の世代促進温室等のスマート農業関連施設を視察されました。



記念品の
受贈

イチゴ栽培温室

水稻世代促進温室

★★★★ 令和6年度 試験研究成果検討会のご案内 ★★★★★

本年度は、以下の日程で開催を予定しています。詳細は後日、ホームページに掲載いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

○開催日：令和7年2月20日（木） 場所：センター3F講堂（対面での開催）

岐阜県農業技術センター

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 Tel 058(239)3131

ホームページ <https://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

